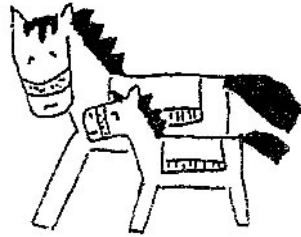


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

31年 4月 NO.293



〒760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		4月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
4月13日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って 一緒にあそびましょう。
4月19日	金	おはなしの会 10:00～12:00	「春のお出かけ」をテーマに 大型絵本やわらべ唄もあります。 お気軽にどうぞ!
4月20日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験に おいで下さい。
4月20日	土	絵本と小物づくり 14:00～16:00	四面変わり絵おはなしシアターを 作成します。どなたでもどうぞ!
4月24日	水	健康と子育て相談 15:00～16:00	園医師(小児科)の都合により午後から の健診相談になります。(予約要)
4月25日	木	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	久保裕子さん(エンブリオ香川代表) に会の内容や活動について話して いただき、フリートークします。

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して
いますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土)9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。



金子みすゞ童話全集④
「空のかあさま」下
JULIA出版社

私のかえるみちみちで、
花のないとこみつけては、
はらり、はらりと、撒きました。
春のつかいのするようすに。

雲雀(ひばり)聴き聴き摘んでたら、
にぎり切れなくなりました。

げんげ



☆今月の内容— 「奈良少年刑務所詩集」

「奈良少年刑務所詩集」 寮 美千子・編

この詩集は、奈良少年刑務所の更生教育である「社会性^{かんよう}涵養プログラム」の1つ「童話と詩」の授業から生まれた詩です。

授業は全6回。最初の回では、絵本『おおかみのこがはしってきて』を教材にする。この絵本は、アイヌ民話を題材にしたもので、父と幼い息子の対話という形で話が進んでいく。子どもの質問に、父親が答えていくなかで、自然の大きな仕組みに気づいていくという物語だ。

絵本の概要を話した後、それぞれに朗読してもらおう。それも、アイヌ風の上着や、アイヌ刺繍のハチマキなどを用意して、父と子の姿に扮し、みんなの前でお芝居のように演じてもらうのだ。

2回目も絵本を読み、3回目は詩を読むことに挑戦する。金子みすゞと、まど・みちおの詩を教材にさせていただいた。「教える」のではなくて、声に出して読み、一人一人の感想を聞いていく。回を重ねるほどに、表現がのびのびとしてくる。

そして、いよいよ彼ら自身に詩を書いてもらうことになる。それまでの授業で言葉に親しみ、「詩」というもののイメージをなんとなくつかんでもらっているので、さほどむずかしいことではない。「書きたいことが見つからなかったら『好きな色』について書いてきてください」と言って宿題にする。

あたりまえ

食べられる

眠れる

歩ける

朝を迎えられる

母がいる

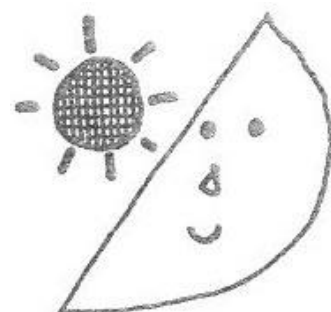
みんな あたりまえのこと

あたりまえのことは

あたりまえじゃないんだと

あたりまえのなかのしあわせに気づかずに
葉を使って偽物のしあわせを求めたぼくは
いまやっと 気がついた

あたりまえの しあわせ
あたりまえが しあわせ



刑務所には、薬物依存症の経験のある者が多くいます。ある少年は、13歳で薬物を、またある者は15歳で覚醒剤をはじめた、というので、驚いてしまいました。中学生が、どうやってそんなものを手に入れたのでしょうか。責任は、彼らだけにあるわけではありません。そんな社会を作ってしまった、わたしたちにもあるのです。「偽物のしあわせ」と「偽物の快樂」に満ちあふれた現代、わたしたちは「あたりまえのしあわせ」を、どこかに置き忘れてきてしまったのかもしれない。

誓い

幼い頃 ぼくは心に誓った

母さんを守ろうと

いろんな人たちから

とくに父さんから

小さなぼくは 父さんに向かってい

その攻撃の矛先を ぼくに向けたくて

けれども どうすることもできず

殴られる母さんの体の下 ぼくは泣いた

なにもできない自分が悔しくて

母さんは 殴られても殴られても じっと耐え

涙もみせず やさしい声で ぼくに言った

「だいじょうぶ すぐに恐くなくなるからね」

いつか強くなって ぼくが母さんを守るんだ

って思ったのに ごめん 遅すぎたね

母さんは 天国へ逝ってしまった

やっと 強くなれたよ

だから この力で守っていくよ

これからは ぼくの大切な人たちを

犯罪者のなかには、ドメスティック・ヴァイオレンスにさらされ、虐待されたという生育歴のある者が、多くいます。自分は、絶対にそんなふうにはならない、と思いつつ、悲しい連鎖をして、暴力をふるってしまうことも多いのです。奈良少年刑務所では、暴力で犯罪を起こしてしまった者に対して「暴力回避プログラム」を実施しています。これは、アンガー・マネジメントという最新の心理療法を取り入れたもの。トラブルが起きたり、強い怒りを感じたとき、自分も相手も傷つくことなく、穏便に解決するにはどうしたらいいか。その方法を、みんなとともに学んでいきます。

もうしません

何度 おかさんを裏切ったか わからん

「もうしません」っていうたんびに

おかんは おれを信じてくれた

それでも おれは 裏切りつづけた

そのたんびに 許してもらった

母親だから 許すのがあたりまえ

子どもだから 許されてあたりまえ

そう思ってきたけど

ちがうんやな

おかんはおれのこと ほんまに愛してくれるから

いつかはおれが 自分のまちがい

きつと気づくはずだと信じてくれてるから

辛抱強く待っていてくれるんやな

おかんは 偉大や



待ってくれる人がいる、というのは、何よりもの励みになります。しかし、問題のある家族から問題行動が生まれた、というケースも多く、出所後待ちうける家庭環境は、必ずしも理想的なものではありません。それでも、入所をきっかけに家族がそれに気づき、学んで、反省し、関係を再構築していくことも多いのです。

奈良少年刑務所では「保護者会」を実施しています。罪を犯した子どもにどう対処したらいいのか、家族の多くは、途方に暮れています。教官は、そんな家族の相談に乗ったり、指導をしたり、なかなか本音で話せない受刑者と家族の橋渡しをしたり、家族ぐるみで更生に取り組めるよう、環境作りをしています。

「空が青いから白をえらんだのです 奈良少年刑務所詩集」より抜粋

寮 美千子プロフィール

昭和30年東京生まれ。1986年毎日童話新人賞受賞。2005年(平成17年)小説「楽園の島 カルカッタ幻想曲」で泉鏡花文学賞受賞。2006年奈良市に移住し、2007年より奈良少年刑務所「社会性涵養プログラム」講師。児童文学からノンフィクションまで幅広い著作がある。